

は うた ごえ よし ます ごう ぞう
涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展

見どころについて本展覧会の企画者である足利市立美術館の篠原誠司学芸員に話を聞きました。

4/27(金) - 6/24(日)
 2018

美術館 企画ギャラリー1.2

一般 1,000(800)円

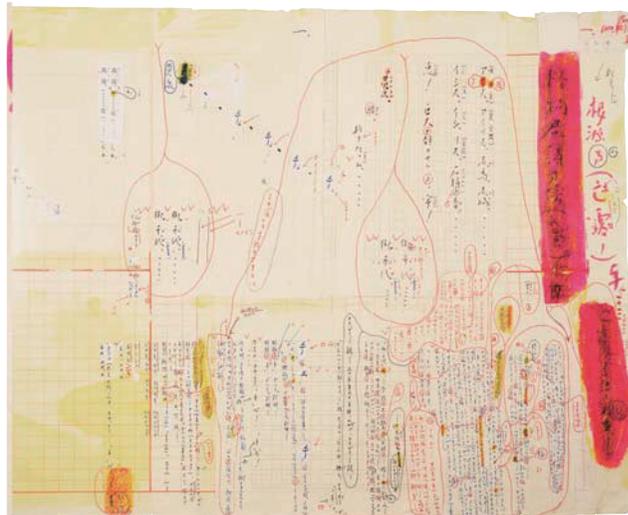
高校・大学生 600(480)円

小・中学生 300(240)円

※()内は前売および20人以上の団体料金



足利市立美術館 篠原 誠司 学芸員



『根源乃手/根源乃(亡露ノ)手、……』原稿 2010年代 作家蔵



『多重露光写真』2003年 作家蔵

吉増剛造(以下吉増さん)について教えてください

吉増さん(1939-)は、1960年代から現在にいたるまで日本の現代詩をリードしてきました。その活動は文学の領域にとどまらず、写真や映像、造形作品など多岐に渡り、私たちを魅了しています。

吉増さんの作品を図録で拝見しましたがすごく独特ですね

吉増さんの詩(作品)はどれも謎が多いですね、とても…。なぜこのような詩が生まれたのか? 非常に国際的にも高い評価を受けていて、なぜこのような難解な詩が皆さんの支持を得ているのだろうか? 本展覧会ではこの謎について、吉増さんが勉強してきたことや関わってきたこと、関わってきた人達から解き起していく展覧会です。詩の生まれた背景や吉増さんが活動してきた背景を詩や写真をはじめとする作品群に加え、吉増さんと関わりのある28名の作家たち(※1)の作品や資料とともに時代を追って巡っていくところが特徴的です。

また、吉増さんは80年代に何十回も沖縄に来ていて、沖縄に対する思いはすごく深

いものがある、今回はその吉増さんと沖縄とのつながりも特別展示で紹介したいと考えています。

「難解」な吉増さんの詩の楽しみ方を教えてください

そうですね…。意味を考えずに、例えば言葉であれば、声に出して口ずさんでみる。意味を追わずに五感で感じる。そうすると書いてある文字の別の姿が見えてくる気がします。日本語というイメージを壊していくことが吉増さんの詩の真髄だと思います。また、何重にもなった詩を展示している詩集や原稿を基に自分なりに読み解くのも楽しみの一つではないでしょうか。

写真作品について、多重露光で撮影(風景が2重、3重になっている)のはなぜでしょうか?

吉増さんが多重露光撮影を始めたきっかけは、たまたまフィルムカメラで誤って重ね撮りをしたことでした。その時、現像した写真を見てものすごい衝撃を受けたと話しています。一つの詩の中で色々な要素(時間、土地、場面など)が重なり合っているも

のが吉増さんの詩であり、その詩と一緒に色々な場所や時間が重なり合う写真がおそらく必要であったのではないのでしょうか。1994年~2008年(約15年)の間は意図的にネガをシャッフルさせ、多重露光写真を何万枚も撮っています。

最後に篠原学芸員の一番好きな作品を教えてください

はい。ズバリ、詩集『オシリス石の神』(84年出版)です。当時の吉増さんは激しく詩を朗読されていてすごかった。この『オシリス石の神』の詩の朗読を野外で山下洋輔のピアノとセッションしたこともあるのですよ!

—— 詩の朗読とジャズピアノのセッションはすごくカッコいいですね!

会期中は吉増さんご本人もオープニングアーティストトークなどの関連イベントで何度かいらっしゃいますので皆さんお楽しみに。

(詳しい情報は7ページの美術館イベント情報をチェック!)

(※1) 出品作家: 吉増剛造 赤瀬川原平/芥川龍之介/荒木経惟/石川啄木/浦上玉堂/折口信夫/加納光於/川合小梅/川端康成/北村透谷/島尾敏雄/島尾ミホ/高村光太郎/瀧口修造 東松照明/中上健次/中西夏之/奈良原一高/西脇順三郎/萩原朔太郎/柳田國男/吉本隆明/松尾芭蕉/南方熊楠/森山大道/与謝蕪村/良寛/若林審